

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（35）

－ 新規採用の強化動向 －

ポイント

- 2023年度の信用金庫の新規採用者数は、推計で46百人となり人数面では前年度並みを確保できたと想像される。
- 新規採用の強化策には、①担当部門の拡充、②PR・イメージ戦略の強化、③採用対象の拡大などがあり、④中途採用と組み合わせる実施していくことが求められる。
- 取組時の検討課題は、目先の人数確保ではなく、10年後・20年後の信用金庫像を見据えた人材戦略のなかで採用方針を決めることである。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、BPR・DXの進展や今後の経営環境の変化を見据えて採用計画を立てる信用金庫があった。

（注1）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

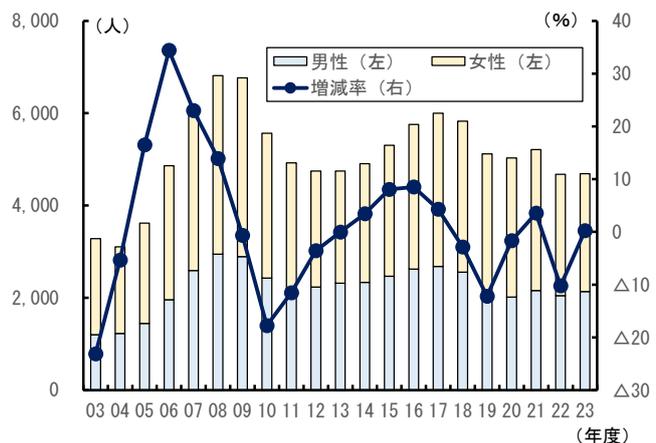
（注2）本稿は、ニュース&トピックス（2022-144）「信用金庫の新しいビジネスモデル策定－新規採用の動向－」のアップデート版となる。

1. 新規採用者数の推移（推計）

2023年度の信用金庫の新規採用者数は、推計で46百人となり、前年度から0.2%増加した¹（図表1）。男女別で見ると、男性が4.1%増の21百人、女性は2.8%減の25百人となる。信用金庫の新規採用者数は、数年単位で増減を繰り返しており、採用を抑制した2003年度と単純に比較すると42.9%の増加を示した。

今後については、若年人口の減少と企業全般での採用拡大により、信用金庫の新規採用は厳しさを増していくと考えられる。そのため、これまで以上に新卒採用を中心とした採用体制を強化・拡充するのに加え、中途採用の募集も一般化していく必要がある。

（図表1）新規採用者数の推移（推計）



- （備考）
1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。
 2. 2023年4月の新規採用者数は、2023年4月末常勤職員数－2023年3月末常勤職員数で推計
 3. 図表1・2ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

¹ 信用金庫の新規採用は4月入庫が大半を占める。また新規採用者数には中途採用者などを含み、4月中の退職者数を考慮しない。

2. 主な採用強化策

主な採用強化策には、①採用担当の拡充、②PR活動の強化、③採用対象の拡大などがあり、足元では④即戦力となる中途採用と組み合わせて取り組む信用金庫が増えつつある。また、これまでの採用スタンスを一步踏み込んでリファラル採用やアルムナイ採用といった新しい採用手法を導入する信用金庫も出てきた。

3. 取組時の留意点

取組時の検討課題は、目先の人数確保ではなく、10年後・20年後の信用金庫像を見据えた人材戦略のなかで採用方針を決めることである。例えば、現在の営業店人員は慢性的な不足状況だろうが、今後のDX進展によっては営業店が人手過剰に転換する可能性も否定できない。目先の人数合わせではなく、目指す信用金庫像の実現に必要な組織体制から逆算して次年度以降の募集人数や求める能力などを冷静に検討する必要がある。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表2のとおりである²。

(図表2) 新規採用の強化に関する主なコメント(新卒採用に関する意見を記載)

- 地域経済の縮小とDXの進展を勘案すると、当金庫はスリム化を避けられない。20年後に職員が余る可能性も想定されるため、今は人手不足でも新卒採用を絞ることにした。
- 当金庫の新卒採用は、応募学生の良質な母集団を作り、そこからセレクトしていく手法である。まずはエントリー数を増やすため、当金庫で出来ることは何でもするし、費用も相当かけている。
- 当金庫は新卒採用を強化するため、担当者の増員を図った。今まで人手不足から満足な内定者フォローも出来なかったが、増員によって定期的な情報提供や内定者向け研修の開催が可能となった。採用の強化策では、内定辞退を減らすことが効果的だと考える。
- 当金庫は自金庫の目指すビジネスモデルなどをHPで公開しており、それに共感する学生の応募が増えている。一方で金庫の目指す姿と現実の営業活動を混同する応募学生も多いので、採用面談では敢えて厳しい話も行う。
- 当金庫は、かつては地元出身者しか採用してこなかったが、近年は地元出身者で必要な新入職員数を確保できず、地元出身以外の学生にも募集をかけている。一方で住宅手当の支給のように今まで未対応だった処遇改善も迫られるようになった。
- 当金庫の地域では高卒者の採用で苦戦がみられる。これは若年人口の減少が主因で、いわゆる指定校だけでは必要な人数を賄うことが不可能である。そこで人事担当役員は県内高校などにも募集案内を行っている。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

² 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません)。